



## 文化庁 梅津章子調査官を 囲む会に参加して

伸びゆく西部をつくる会会長 河原 英二

小浜西組協議会の澤口会長からお誘いを受け、平成25年10月29日（火）熊川児童館において、熊川宿と小浜西組協議会と合同で行なう文化庁梅津調査官を囲む会に初めて参加させていただきました。

参加者は文化庁梅津調査官、福井県職員、熊川宿まちづくり特別委員会委員、小浜西組町並み協議会委員、小浜市・若狭町職員他総勢約50名で19時30分～21時まで行なわれました。

最初、梅津調査官より過去1年間国内で重伝建地区に選定された4件の趣旨説明があり、中でも内1件は農業地が選定されたとのこと。（昔ながらの農村風景だ

そうです。）そして現在では日本国内に、100を超える重伝建地区が選定されているとのこと。

今後小浜西組の特徴をどのような形で現わすかが課題だと感じられました。

次に、熊川宿、小浜西組が現在かかえている問題点の意見交換会が行なわれました。

熊川宿では「重伝建に認定された当初の外壁に損傷が見られ、2度目の補助金が受けられるかどうか？」小浜西組では「水害に対する家屋の構造変更は可能か？」など質問ができました。



河合会長 挨拶の様子



梅津調査官

熊川宿の回答としては、「まだ修復できていない物件が多数あり優先順位をつけて対応したい」小浜西組の回答としては、「重伝建としての大枠はくずせないが、修復内容次第であり、そのつど検討したい」とのことです。

文化庁としては、「地区住民及び若狭町、小浜市を支援するという基本姿勢があり、話し合いの中で対応したい」とのことでした。

その後交流会に入り、個別に熊川宿の会長様、県文化財今出様、建築士の宮田様（熊川宿相談委員）、の方の話を聞くことができました。熊川地区で重伝建対象世帯数は約120世帯だそうです。熊川宿でも小浜西組同様、高齢者が多く特に

50歳～60歳の若手（？）が少ないとのことでした。熊川宿は対象範囲が狭いことが関係しているのだと思いますが、地区住民、まちづくり委員会、行政間においてよい雰囲気の中で進められていると感じました。

小浜西組は熊川宿より範囲が広く（世帯数も多い）、どのような形で意見を集約し優先順位をつけていくかが難しいと感じました。他の地区にない小浜らしさ（例えばお寺が多い等）が活かされるような町づくりを考えることが必要ではないかと考えます。

以上、文化庁梅津調査官を囲む会交流会参加に際し、私個人が感じた感想、意見を述べさせていただきました。



懇親会の様子

## 地域づくり団体全国研修交流会 福井大会 第五分科会（小浜市・若狭町）

第31回 地域づくり団体全国研修交流会福井大会が、11月15日～17日、福井県で開催されました。15日前夜祭と16日午前中の全体会は芦原温泉グランディア芳泉で行われ、その後県内13か所の分科会に分かれて研修交流会が行われました。

小浜市・若狭町で行われた第5分科会には、東は群馬県・埼玉県



から西は長崎県までの全国各地から24名の方々が参加されました。

16日午後3時ごろ広峰の通りに到着し、いずみ町から旧旭座・八幡神社・空印寺を回り、小浜町並み保存資料館で休憩して都菓子舗特製の丁稚羊羹を召し上がっていただきました。その後常高寺までご案内し、本堂で4時半ごろから協議会の活動報告と意見交換会を持ちました。その後5時30分より大原から三丁町をご案内し松原邸（旧木広）の邸内、酔月・庚申堂を経て料亭たるいの離れと奥の離れを見学いただき、お宿のホテルアーバンポートにご案内しました。

午後7時より交流会が行われ、アーバンポートさんのご厚意で、鯖鮨・鯖の熟れ鮨・焼き鯖鮨・焼き鯖・若狭かれい・小鯛の笹づけ・若狭牛のステーキ・熊川葛のデザートなど豪華なお料理でした。また、交流会のアトラクションでは、貴船区の皆さんによる山車の囃子を披露していただき、料理とともに参加者の皆さんに大変ご満足いただけました。

翌朝8時に小浜を出発し午前中熊川宿で、蛸のビオトープ、熊川葛、番所などを散策しての説明を受けるなどし、児童館では熊川地区の町づくりについての説明とてっせん踊りと熊川音頭をご覧いただき、おやつにこんにやくのから揚げを召し上がって頂きました。

最後に旧逸見勘兵衛家にて手作りのお弁当と、若狭東高校の生徒さん作られた熊川葛のプリンを召し上がっていただき、12時40分ごろ熊川を出発して帰路につかれました。

地域活性化センター理事長の高橋さまをはじめ多くの方からお褒めの

言葉を頂きましたのも、地域の皆様のご協力のおかげです。大変ありがとうございました。



ビオトープの説明を聞くみなさん



熊川葛の説明



てっせん踊り



熊川宿での昼食の様子

## 町家de祝言を終えて

去る11月9日の夜、貴船、香取、飛鳥の通りで、花嫁行列が行われました。

この行列は、町並み協議会の建築委員会委員でもある上中雄一郎くんが所帯を持つにあたり、友人たちで「町家de祝言実行委員会」を立ち上げ、盛り上げてあげようと企画したものです。

当日は行列の沿道の皆様はもちろん、噂を聞きつけて駆けつけてくださった方々もたくさんいらっしゃって、とても賑やかな花嫁行列ができました。

夕刻17時45分に貴船会館を出発ということでしたので、すっかり日が暮れてからの行列でしたが、夕飯の支度時にも関わらず、本当にたくさんの皆さんに祝福していただけたことは、新郎新婦にとって、大変よい思い出になったと思います。

「昼間ならもっとハシするのに、なんで夜なんだ？」という疑問のお声も頂戴しましたが、モノの本によると、昔の嫁入りは夕方から夜にかけてというのが当たり前だったそうです。夜に新郎宅に到着して、それから祝宴というのが、古き良き日本の風習だったということです。それにちなんで、貴船会館から三丁町の酔月まで、日もとっぷり暮れた夜の西組を、提灯の灯りと、行灯の灯りを頼りに、約15分かけて歩きました。

到着場所の酔月では、小浜市長はじめ、祝宴の参列者、そして近隣の皆様にお出迎えいただきました。到着後、酔月玄関先にて新郎挨拶、鏡開き、振る舞い、乾杯を行い、最後に記念撮影をして、酔月の座敷にて祝宴に入りました。



企画した実行委員会をはじめ、行列参加者のほとんどは実際の花嫁行列を知らず、果たして形になるものだろうかと戸惑いがありました。いろいろな方のアドバイスもいただき、天候と地域の方々にも助けられて、思い出に残る花嫁行列と祝言ができました。

ご近所の皆さん、その際は夜遅くまでご迷惑をおかけしました。紙面をお借りしてお詫び申し上げます。また、当日祝福してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

思いのほか、この度の花嫁行列と祝言がよかったとお声をいただき、実行委員一同、本当に喜んでおります。またこのような機会がありましたら、ぜひまちの皆さんで祝福してあげてください。ありがとうございました。



花嫁行列と鏡開きの様子